12 課 Lección 12　　Correo electrónico de despedida

■　本文

Q-1. (３) Como no podemos vernos antes de mi salida, te escribo este mensaje desde Salamanca. desde とありますが de にするのは可能ですか？
A-1.　de にはいくつもの意味があります。te escribo este mensaje desde Salamanca.の desde を de にすると「サラマンカの/についてのメッセージをあなたに書きます」という意味にもなってしまうので、それを避けるために desde を使っています。

Q-2. (４) ¡Ojalá hubiera podido tomar café y charlar contigo y con Juan este último fin de semana! で último fin とありますが、両方とも最後という意味を含んでいるので違和感があります。（英語でも last finish とはあまり言わないですよね？）この表現は正しいのですか？
A-2. はい、正しいです。fin de semana は weekend ですから、ultimo fin desemana は last weekend です。

■　文法

１ 接続法・過去．規則変化

Q-1.　直説法の点過去, 線過去, 過去未来に対応する接続法は, 接続法過去形と習いました（Creí que llegaba / llegó / llegaría él.→ No creí que llegara él.）。しかし，なぜ直説法の肯定形の時は 3 通りある過去形（線過去と点過去では直説法の時に使われ方もニュアンスも違うのに）が接続法になると，一通りになってしまうのですか？
A-1.　直説法には 3 種類の過去があるのに，接続法では１種類の過去しかないためです。それでは，なぜ接続法が１種類だけなのかは次の事情によります。直説法の未来と過去未来は話者の推量を示すのですが，接続法は主観的な評価の内容になるので，それとぶつかります。そのためだと思いますが，古いスペイン語の形には「接続法未来」があったのに，今では使われなくなりました。また点過去は，特殊な過去形で動詞の体系全体から見ると外れています。「終わったこと」として別扱いされるのです。そこで接続法過去は体系的には直説法線過去に対応するのです。実際には直説法過去未来と点過去も含めることになります。

２　接続法・過去．不規則変化

３　接続法・過去完了

４　接続法・過去．se 形

Q-2.　接続法の se 形と ra 形は，どちらかが使えない場合があると聞いたのですが，これはどういうことですか？また，接続法の se 形と ra 形はどのように使い分ければよいのですか？
A-2.　ra 形は一般的な接続法過去の使い方の他に，直説法過去完了と同じ意味で使われたり，また非現実的条件文の帰結節で過去未来形の代わりに使われることもあります。たとえば次の例を見てください。Después de que los Reyes Católicos le dieran el financiamiento Colón partió desde el puerto de Palo.（カトリック両王が資金を提供すると，コロンブスはパロの港

から出港した。）／Si yo fuera rico, no trabajara como profesor.（私が金持ちならば教師の仕事などしないのだが…。dieran は habían dado の意味で使われ，trabajara は trabajaría の意味で使われています。

Q-3.　接続法過去に ra 形と se 形の２種類がある理由がわかりません。どういう由来なのか教えてください。
A-3.　se 形はラテン語の接続法過去完了に由来します。一方，ra 形は直説法過去完了からできた形です。スペイン語の早期から直説法過去完了は haber の過去＋過去分詞で表現されたので，ra 形が直説法過去完了としては徐々に使われなくなり，その代わりに 15 世紀頃に接続法過去として使われるようになりました。ということで，現代スペイン語で ra 形と se 形が競合する結果になりました。なお，ra 形は現在でも少し古い文体で（とくにラテンアメリカで）直説法過去完了の意味で使われているのを見ることがあります。

５条件文

Q-4.　なぜ非現実の条件文では，現在のことを想像しているのに（接続法の）過去形が使われるのですか？
A-4.　一般に過去形が条件文で使われると「…だったら」という意味で（現在形よりも）現実性がなくなります。日本語の非現実仮定文でもたとえば,「私が金持ちだったら（仕事などしないのに…)」などと言います。このことは願望文でも同じです。cf.日本語「…だったよいのになあ」

■その他

Q-1.　中級者向けの自習教材についてサジェスチョンをお願いします。
A-1-1.　まず結論から言うと, 自習教材を使って自分で勉強するよりは, 時間割が許すかぎり, 教養学部で開講されている中級の授業をとることをおすすめします。初級授業を終えただけでは辞書だけを頼りに生のスペイン語を読むのは難しいし，そのあたりを配慮して日本語で出ている自習書も，ひとりで読み進めると飽きがきてしまいます。先生とのあいだのインターアクションで学んだ方がずっといいです。
　それでもどうしても時間割が許さない，という場合のために，自習書を紹介します。
○中級教科書
　初級の教科書はたくさんありますが，中級はずっと数が減ります。私の手元にあるのは,
　田尻陽一・西川喬『中級スペイン語講座』芸林書房.
　ピエダー・ガルシア他『プラサ・マヨール II』朝日出版社.
　上田博人『スペイン，文学の旅』第三書房.
などです。
○読本（readers, libros de lectura）
　外国の文学書の一部を抜粋し，原文の難しいところに注をつけて自習者でも読めるようにした数十ページの小型本は，昔はたくさん出ていましたが，今はあまりふるわないようです。この型の読み物の出版に熱心だったのは，最初は大学書林，続いて芸林書房です。
　大学書林の「大学書林語学文庫」は駒場の生協書籍部の棚の上の方にあります。アラルコン『黒瞳』とか，ベッケル『白鹿』，ピオ・バローハ『マドリー下町物語』，マエストゥ『愛の象徴ドン・キホーテ』とかが入っています（大学書林にはホームページがありません。紀伊国屋

書店のホームページで「大学書林」で検索するとどれが今でも手に入るかわかると思います)。
　芸林書房はついこの間までこの種のスペイン語読本の出版に熱心で，長南実先生が注をつけたフアン・ラモン・ヒメネス「プラテーロとわたし」や牛島信明先生が注をつけたセルバンテス「ドン・キホーテ」(両先生とも全訳を岩波文庫で出しておられます）などいい本が何冊も出ています。Amazon や紀伊国屋のネット情報によると，どうやらかなりの書目が今では版元品切れのようです（芸林書房のホームページには今でも載っていますが)。インターネット古書店や Amazon のマーケットプレイスやで探す道はまだ残っています。
○報道
　このような読本類の衰退と裏腹に，インターネットの発達により，日本語の注釈がなくても良ければ，スペイン語テキストを見ることは以前より格段に容易になりました。
　たとえばスペイン語の報道記事を見るには, まず日本語のグーグルニュースのサイトへ行き, そのページを一番下までスクロールすると, France とか Deutchland とか中国版(China)とか, いろいろな国の名前が青文字のリンクになっています。その中の，España とか México とか Argentina とか Estados Unidos とかをクリックすると，それぞれの国のスペイン語報道機関が発信した最新のニュースを見ることができます。
　皆さんの段階でいちばんとりつきやすいのは，おそらくイギリス国営放送 BBC のスペイン語放送部門 BBC Mundo.com だと思います。ただし BBC Mundo がやさしいのは記事の大半が外国語（英語）から翻訳されたスペイン語だからです。したがってスペイン語ならではのコクのある表現にはなかなか出会うことができませんが，しかし中級者が文法や語彙の力をつけるにはちょうど適当だと思います。
　毎日まず見出しだけざっと見る。それから面白そうな記事のリード部分だけを読む。関心があったら記事本体に挑戦する，というふうに進むのがいいと思います。
○原書
　イタリア書房（神田神保町)，スペイン書房（仙台)，インタースペイン書店（四谷）などでは本を手に取ってみることができるのがありがたいです。それぞれネット通販もやっています。グーグルで書店名を検索すると簡単にホームページへ行けます。
　インターネット書店の発達により，原書を直接海外から手に入れるのは，クレジットカードさえあればひじょうに簡単になりました。スペイン語書籍の本屋さんとしてはスペインの www.casadellibro.com メキシコの www.gandhi.com.mx などが有名でしょうか。
　さて，問題は，中級者は何を読んだらいいかなんですね。やさしいものは他愛がない。読みごたえのあるものは難しい。悩ましいところです。
　中級者のためのひとつの選択肢としてあるのが，アメリカで出ているリーダーを読むことです。アメリカはとにかくスペイン語学習者が多い国で，短編小説 cuentos を集めて，場合によってはリライトして, 英語の注をたくさんつけた教材が, 昔も今もたくさん出版されています。www.amazon.com で，キーワードを spanish reader として検索すると大量に出てきます。
　まあ，玉石混淆なんですけどね。これまでで私が買ったいちばんの当たりは，Mario B. Rodriguez, Cuentos alegres という，1950 年代に出たリライト短編小説集でした。文章の書ける人がリライトしているのでそれ自体として面白く読め，ユーモア小説を集めたものだから授業でも使いやすかったです。(高橋)
A-1-2.　この「質問と回答」の第 6 課の最後にも有益な情報が載っていますのでご覧下さい。

Q-2. どの旧植民地も旧宗主国に対しては複雑な感情を持つものだと思うのですが、ラテンアメリカに関してはアメリカ合衆国に対する感情などはマスコミ等を通して耳にしても、ラテンアメリカの対スペイン感情についてはあまり耳にしません。やはりたとえば、このような語があ

るかはわかりませんが、「スペイン帝国」のような言葉は使わないなどの旧宗主国としてのスペインへの反発などはあるのでしょうか？
A-2. 独立したのがもう 200 年も前のことなので、独立当初にあったような反スペイン感情はもう形骸化していると言っていいかと思います。むしろ対外関係がアメリカ一辺倒になるのを避け、多角化をはかるためのチャンネルのひとつとして活用されているようです。たとえば 1991 年以来毎年、イベロアメリカ・サミット la Cumbre Iberoamericana が開かれています。これはスペイン・ポルトガルとラテンアメリカ 21 カ国の首脳会議です。
対スペイン意識の言葉への反映の例はちょっと思い当たりません。ラテンアメリカでスペイン人を指す蔑称としては、gachupín というのがあります。金髪碧眼で、商売上手で、抜け目がなくて、現地人を見下している、というイメージでしょうか。

Q-3. キューバやベネズエラでは野球が人気ですが、野球に関する単語はスペイン語ではどのように表されるのでしょうか？例えば、日本語の四球（フォアボール）が英語では walk、死球（デッドボール）は hit by the pitch、サヨナラホームランは game ending home run といった違いが見られます。
A-3. 野球は中南米のスペイン語地域に米国経由で伝わりました。そのためルールや用語は英語を下地としたスペイン語訛りのような形で定着しています。実は土着度に応じて国ごとの地域差もあり、英語をそのまま使う場合、音や意味の似たスペイン語に新しいニュアンスを付加する場合、まったく別の単語で言い換える場合など、様々です。
たとえば四球は base por bolas または pasar por bolas（ボールによる進塁）と呼ばれたり、boleto や pasaporte(いわゆる旅券と同じ綴り)といった俗語が適用されたりもします。
死球についても、英語の dead ball がそのまま使われる場合もあれば、それが dedbol や debol と表記されたり、pelotazo という単語であらわされたりします。
ホームランも同様で、cuadrangular、vuelacerca、bambinazo という言い方があるほか、音を似せて jonrón(スペイン語では home run の h を発音しないため)と綴られる国もあるようです。
スペイン語による TV やラジオの中継を聞く機会があれば、ひとつひとつ整理してみるのも面白いですね。英語の野球用語がどのようにしてスペイン語圏へ移入されたかについては、東京大学スペイン語部会編集の中級教科書 Viajeros に少し書きました。そちらも是非、参照してみてください。(倉田量介)

Q-4. こんにちは。はじめまして。私は、工学部社会基盤学科国際プロジェクトコースに内定いたしました、理科一類２年の者です。 この３月に一ヶ月ほどスペインへの短期語学留学ができればなと思い、ご相談をしたく、投稿させていただきました。 私は、途上国の開発やそれに関するさまざまな問題（貧困問題など）に興味を持っておりまして、現在の学科に進学を決めました。そこで、教養時代に唯一成績のよかった必修の西語を、将来のためにきちんと勉強しなおそうとしております。いまは、第三学期の半年のブランクを経て、現四学期、教養学部（後期）の西語の授業をとったり、Dímelo をやり直したりしておりますが、まだまだの状況です。そのような経緯で、春休みを活かしてこの３月に一ヶ月ほど、スペインへ語学留学を決意いたしました。 インターネット上には確かにスペイン留学の情報はいくらでもありましたが、どれを信用していいのかわからずにいます。なので、詳しい方がいらっしゃいましたら、いくつか語学学校（大学）を紹介していただきたいと思っております。どなたか、情報をいただけると幸いです。 年末でお忙しいとは思いますが、よろしくお願いいたします。
A-4. 語学学校はたくさんあって、じつは私たち教師もどこがよいのかあまり情報がありません。ただ、最近 2 人ほどサラマンカ大学付属の語学学校に短期留学して、非常に満足して戻ってき

ました。もしまだどこに行くか決まっていないようでしたら、その学生をご紹介します。サラマンカは町自体がとても落ち着いた大学町で、短期留学にはよいところだったようです。(2007年に回答、斎藤)

Q-5. このサイトの語彙集についてなのですが、ir,viajar/por,para などスペイン語には意味が似通った語がありますがそういったものを集めた類義語集を作ってはどうでしょうか? スペイン語の電子辞書は持っているのですが、英語しか類義語集はなく、かといってわざわざ購入するほど使う予定はないので、こういったサイトで作ると学生にとっては便利だと思います。
A-5. すばらしいアイデアをありがとうございました。確かにそのようなものがあるとよいと思います。「類義語・類義表現」のコーナーを作るにはまだ材料が足りないので、少しずつ増やして、たくさんたまったらそのコーナーを作る、というプランはいかがでしょうか。　とりあえず、ir は「（一般に）（移動して）行く」という意味で使いますが、viajar は「（一般に）旅行する」という意味でよく使われます。でも、viajar は次のように使われることもあります。Cada dia viajo 15km para ir a la universidad. この場合は「旅行」が目的ではなく、単に「移動する（通学・通勤する）」という意味になります。　それから、por は基本的に「理由」、para は「目的」として区別するとわかりやすいと思います。Cancelamos el viaje por la lluvia.「私たちは雨のために旅行を中止した」では、「雨」が理由になります。また、No tengo tiempo para estudiar.「私は勉強する時間がありません」では、「勉強すること」が目的になります。para の語源は por（「理由」を示す） と a（「方向」を示 す）がつながってできた語です。「目的」＝「理由」＋「方向」という感じです。（上田）

Q-6. スペインでは驚いたときとっさに出る言葉ってどんなのでしょうか？
A-6.　卑語に近い表現を含めていろいろあります。
　!Ay!　!Caramba!（縮めて!Caray!）　!Uf!　!Que/ cosa!　!Que/ horror!
あと英語の My God! Good God!と同じで神様もよく出てきます。
　!Ay Dios!　!Dios Mi/o!

Q-7. 日本人は“全然”を否定語と呼応させるというルールを破りつつあり、“全然大丈夫”などと平気で言うようになっています。これに対して誤った日本語であると評価する立場と、言語は流動的で多数決によって決まる（多くの人がそう言い始めると、その誤った言い回しが市民権を得る）と考える立場がありますが、スペイン語圏には言語の変化に対する特定の思想などあるのでしょうか？
A-7. この問題は言語研究において重要な課題となっています。言葉遣いが正しいか間違いかを評価する立場を「規範主義」といい、一方、言語のありのままの現実を重視する立場を「記述主義」といいます。言語研究者はふつう記述主義の立場をとっていますが、教育の場や社会的な影響に配慮する場では規範主義の立場が見られます。次はスペイン語の規範を重視する「スペイン王立アカデミー」の最近の出版物です。
Real Academia Española. 1999. Ortografía de la lengua española. Madrid. Espasa Calpe.
Real Academia Española. Asociación de Academias de la Lengua Española. 2005. Diccionario panhispánico de dudas. Madrid. Santillana

1 冊目の本(1999)では、本の題名の最初の単語だけを大文字で書くことを規定しています。例：Cien años de soledad. また、2 冊目の本(2005)では、たとえば garage - garaje「ガレージ（車庫）」という 2 つの書き方の中で garaje を勧めています。言葉遣いの間違いを指摘する本は他にもたくさんあります。

一方、同じスペイン王立アカデミーから次の本も出版されています。
Bosque, Ignacio y Violeta Demonte. 1999. Gramática descriptiva de la lengua española. Real Academia Española. Colección Nebrija y Bello. 3 vols. Madrid. Espasa. これは、書名にも書かれているとおり記述的な立場をとり、非常に多くの文法現象の実態とその解釈を載せています。たとえば、Le he visto.「私は彼を見た」というときにloではなくleが使われる地域について。 規範的な立場はスペインに限らずスペイン語圏一般に共通し、各国が独自の立場を展開しているということはあまりありません。スペイン王立アカデミーの求心力が強く、スペイン語圏全体の規範はほぼ統一されています。2冊目の本の著者名に「スペイン語アカデミー協会」Asociación de Academias de la Lengua Española. がありますが、この団体が統合の役目を果たしています。一方、記述的な研究を見ると、言語の現実は各地で様々に変異していることがわかります。 言語は地理的にも歴史的にも一定の規範に従った恒常的なものではなく、各地で様々に変異し、時代ごとに変化していきます。これは自然なことです。しかし、学校教育などによる一定の規範がなければ、言語はバラバラの状態になって、通信や共感のメディアとして役に立たなくなってしまいます。自然な状態と規範を守っている状態が共存しているのですから、その使用者はどちらにも通じている必要があるでしょう。学校などで教育を受けた人や言葉遣いに気をつけている人はTPOによって使い分けているのです。 ところで、スペイン語の前のラテン語の時代にも規範的な立場で書かれた間違いリストがありました。このリストの中に、その後に起きたスペイン語などの言語変化の予兆が見られます。記述主義をとる言語研究の立場からも規範主義に基づく記述が役に立つことがあるのです。（上田）